

カーネーションの茎頂培養について

佐藤義機・山本保

この実験はカーネーション茎頂培養の培養時期,芽の位置,品種間における成苗株率とウイルス・フリー株率との関係を検討した。

その結果はつぎのとおりであった。

茎頂培養はどの時期でも可能であるが,夏季の高温期はカルスの形成が著しく,正常な幼苗を得る割合が少なかった。

頂芽は腋芽に比べて,萌芽・発根率が高く,発根後の生育も良好であった。

成苗株率は品種間で差があった。イエロー・スマイリング,豊田ローズ,エレガンス,イルミネーター,レッド・ゲーター,大分 2 号は成苗株率が高く,逆にユーコン#1,ダーク・レナ,イエロー・ダスティおよび香川 1 号は低かった。成苗株率の低い品種では茎頂のカルス化しやすい傾向がみられた。健全株から芽を採取して茎頂培養すると,ほぼ 100%のウイルス・フリー株を育成することができたので,ウイルス・フリー株率を高めるには,まず健全株を確保することが重要であるといえる。